カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	学校教育教員養成課程
コース等名	教科教育コース・家政教育選修

教育学部の教育目的（具体的に記述・箇条書き）			学校教育教員養成課程の教育目的（具体的に記述・箇条書き）				教科教育コース・家政教育選修の教育目的				
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。			子どもを愛し教育および教職に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。				家族関係を中心として衣食住など家庭生活に関わる内容について、人文・社会・自然等の諸科学を基に総合的に把握し、自立と共生の価値観に基づいた生活者を育成する、と同時に、これらを学校現場で指導出来る家庭科教員を養成する。				
学校教育教員養成課程教科教育コース・家政教育選修のカリキュラム			学校教育教員養成課程のGraduation Policy(GP)（◎＝GP達成のために、特に重要な事項、○＝GP達成のために、重要な事項、△＝GP達成のために、望ましい事項）				教科教育コース・家政教育選修のGraduation Policy(GP)（◎＝GP達成のために、特に重要な事項、○＝GP達成のために、重要な事項、△＝GP達成のために、望ましい事項）				
授業科目名	授業科目の主題（箇条書） （この授業科目における中心となる題目、問題、テーマ等を箇条書に記入する。）	授業科目の到達目標（箇条書） （この授業科目の学習後に到達すべき具体的な（行動）目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書に記入する。）	S 1．教育理念理解力・教職展望力：　教育の現状や制度、教職の意義を理解し、広い視野から自己の将来のあり方を展望することができる。	S2. 教育方法・技術力、指導力：幼児・児童・生徒の心身の発達段階や教科の特質、教育方法・技術の基礎を理解修得し、発達段階に応じた指導をすることができる。	S3. 生活指導力：　道徳・特別活動・生徒指導に関する教育方法を修得し、幼児・児童・生徒の生活全般に渡る指導を行うことができる。	S 4．教育実践力：教育現場における指導全般を実践的に理解・体得し、現場での適切な指導を行うことができる。	1. 家族や家庭生活の重要性を理解し、生活に関する基本的な知識と技術を修得するとともに児童・生徒の人間性豊かな家庭生活の形成能力と態度を育てることが出来る。	2. 家庭科の専門的内容（家庭経営、衣食住、保育、家庭科教育）を理解し、小・中・高等学校における教育実践に生かすことが出来る。	3. 実習および実験の技術を修得し、安全に配慮した家庭科の指導を行うことが出来る。	4. 生活問題を発見し、問題解決に向けて多様な手法を用いて考えをまとめる指導法に精通し、実践に応用することが出来る。	5. 課題研究を通して、計画立案、実施、結果分析・評価および総合的・応用的能力を獲得し、論文および講演として明確に表現することが出来る。また、その能力を学校現場の指導に生かすことが出来る。
学部共通科目											
総合演習	人類に共通する課題や日本社会に関わる課題について学ぶ。	1. 人類や日本社会の課題を理解し、説明できる。　2. 上記の課題を分析・検討し、自分の意見を持つことができる。 3. 上記の課題についての自分の意見を相手に応じて分かりやすい形で伝えることができる。		3. ◎							
教職に関する科目（小・中）											
教職論	1. 教職の意義や魅力、求められる資質、能力などについて理解する。2. 教職への意欲、志向、使命感などを育む。	1. 教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2. 教職への意欲や積極的な構えを持つことができる。 3. 教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. △	1. △	1. △					
教育原論	1. 教育を成り立たせる原則 2. 教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開	1. 教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 2. 授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3. 教育について系統的に考えようとすることができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎								
教育哲学	1．教育哲学の学問的性格 2．シュプランガーの生涯と教育哲学 3．シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育	1．教育哲学の学問的性格が理解できる 2．シュプランガーの生涯と教育哲学が理解できる 3．シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育の特色が理解できる	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎								
教育史	1．日本の教育の理念・思想の歴史的展開 2．日本の教育の歴史的性格	1. 日本の教育の理念・思想の歴史的展開について説明できる 2. 授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3. 日本の教育の歴史的性格について説明することができる。	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎								
発達心理学	1．人間の発達の原理・要因について理解を深める。 2．発達段階及びその発達課題について学習する。 3．学校・家庭・地域など身近な場面での生涯発達として捉える。	1．自己の理解の上に立ち、発達心理学的知識を確実に吸収する。 2．知識やデータを主体的に受け入れ、自ら考え、判断できる。 3．日常生活に密接した興味・関心のある内容に意欲的に取り組む。 4．心理学的研究の方法や分析など基本的な手法について理解できる。 5．心理学を科学として位置づけることができる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎							
教育心理学	1．学校における教育活動において子どもをどのようにとらえるべきかを概観する。 2．児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価について データに基づいた説明する。 3．いろいろな指導法や心理療法について概説する。	1．子どもへの援助的な指導のあり方について理解できる。 2．児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価における理論について、データに基づいた見方ができる。 3．いろいろな子どもに沿った指導法や心理療法があることを理解できる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	1. ○ 3. ○						
教育社会学	本講義では、準拠集団における子どもの社会的発達（＝社会化）について理論的・実証的に理解するとともに、教育社会学的研究の基礎をつくる。	1. 社会化概念について説明できる。 2. 子どもの発達に対する準拠集団の実態・課題について説明できる。 3. 講義中で触れた領域について自分の意見を論理的に展開できる。 4. 現代社会における「子ども・教育」問題を指摘できる。またその出現・解決のメカニズムについて自分なりに解決しようとする意志を示す。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎							
教育制度	1．学校教育には様々な「制度」、「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに解説を加えていく。 2．基本的に講義形式の授業だが、適宜意見を求めることがある。	1．学校教育を中心とする教育制度の概要が理解できている。 2．教育制度の特徴や課題について自ら具体例をあげながら論じることができる。	1. ◎ 2. ◎								
教育法規	1．教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。	1．現行教育法規の要点が理解できている。 2．主要な教育法規について、法規定の文言、その意図するところを把握できている。	1. ◎ 2. ◎								
社会教育	1．生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。	1．生涯学習のねらい、キー概念などの基本的事項について理解できる。 2．社会教育の各分野の概要と課題について理解できる。	1. ◎ 2. ◎								
国際理解教育概説	1．国際理解および国際理解教育の必要性、基本概念、範囲について理解する。 2．各自の専門教科での国際理解教育の取り入れ方や実践方法について考える。 3．現在の日本の学校教育における国際理解教育との関連性を政策面および実践面から理解する。	1．国際理解および国際理解教育の必要性や概念 と歴史的展開について理解し、説明することができる。 2．国際理解教育の実践事例を自身の専門性と関連付けて考察することができる。 3．日本の学校教育と国際理解教育の関連性を理解し、説明することができる。	1. ◎ 2. ○ 3. ◎	2. ◎ 3. ○							
教育方法学	1．授業の基本原則 2．主体的な学びの成立と指導 3．教育課程の編成	1．授業が持つ４つの基本的性格について理解し、説明できる。 2．児童・生徒の主体的な学びを呼び起こす指導の諸技術について説明できる。 3．教育課程の編成原理と方法について説明できる。		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎							
教育メディア論（教育原理、情報倫理及び教材を含む。）	教授・学習過程（授業）において、「わかる」「楽しい」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割、効果について学修する。さらにパソコン、インターネットなどによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計・実施・評価について学修する。	1. メディアを利用した授業の特徴を理解できる 2. 論理的、批判的な思考力と判断力について学び実践できる 3. メディアを利用した教材の開発ができる 4. 自発的、独創的に取り組む姿勢がもてる 5. メディアを利用したプレゼンテーション実践を通して、その計画・実施・評価ができる		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎							
道徳教育	1．道徳の語源と意味 2．西欧の道徳観の変遷 3．道徳教育の目的・内容・方法	1．道徳の語源と意味について理解できる 2．西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 3．道徳教育の目的・内容・方法について、理解できる。	1. ◎ 2. ◎	3. ◎	3. ◎						
特別活動	1．特別活動の目標と内容 2．学級指導の基本原則と方法 3．特別活動の指導計画	1．特別活動の目標と内容について理解し、説明できる。 2．学級活動の指導原則とその方法について説明できる。 3．特別活動の指導計画作成の基本的観点と構成要素について理解し、指導できる。		2. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. △ 3. △					
生徒指導概論	1．生徒指導の意義と目的 2．生徒指導の内容と方法 3．生徒指導計画	1．生徒指導の意義と目的について理解し、説明できる。 2．生徒指導の内容と方法について理解し、説明できる。 3．生徒指導計画の基本的観点と構成要素について理解し、説明できる。		2. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎	2. △ 3. △					
教育相談・進路指導	1．生徒指導と教育相談の違いについて説明する 2．学校における不登校、いじめ、非行などさまざまな問題に対する基本的姿勢について解説する。 3．臨床心理学のさまざまな技法について解説する。	1．生徒指導と教育相談の違いについて理解する。 2．不登校、いじめ、非行などさまざまな問題の原因を理解し、それらに対する基本的姿勢を身につける。 3．臨床心理学のさまざまな技法について基本的技法を理解する。			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎						
事前・事後指導	1. 教育実習前と後に行う指導を通して、高等学校での教育実習の目標の達成をより確かなものとする 2. 教育実習に求められる必要不可欠な基本的・基礎的事項を身につける 3. 教育実習の意義・概要・指導方法についての講義を行う 4. 教育実習で得られた経験から教育実習における問題点の整理し、実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識する	1教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につけ、実行できること 2. 授業記録を作成することができること 3. 授業参観等を通して、教育観、学校観、授業観、子ども観をまとめることができること 4. 授業参観等を通して、自分が行いたい学習指導、生活指導・生徒指導を説明できること 5. 教育実習で得られた経験から教育実習における問題点を整理することができること 6. 教育実習を通して習得した内容をまとめることができること 7. 実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識することができること 8. 教育実習を通して、学習指導、生活指導・生徒指導の観点から自分の変容について説明することができること	3. ○ 7. ○		4. ○ 8. ○	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎ 6. ◎ 7. ◎ 8. ◎					
教職に関する科目（小）											

教科教育法国語	小学校の国語科教科書における文学教材の学習指導のあり方について考究する。過去の優れた実践例や現在の指導例を紹介しつつ、今日の文学教育が当面する課題や問題点を検討してゆく。	1．文学教育の変遷および今日的課題について、概要を説明できる。 2．文学教育の問題点や今日的課題について、自分の考えをまとめることができる。 3．文学教育への関心を深め、実際の学習指導の改善に意欲的に取り組むことができる。 4．多角的な視点から問題点を捉え、考察を加えることができる。 5．自分の見解を口頭や文章で適切に表現できる。		1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．○ 5．◎							
教科教育法社会	1．小学校社会科の教材研究と教材構成 2．小学校社会科の授業構成	1．地域調査や教材研究を通して、小学校に対応した学習資料を作成できる。 2．一定の題材に関する小学校社会科の学習を構想できる。		1．◎ 2．◎							
教科教育法算数	1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について解説する。 2. 小学校算数の指導方法に関して解説する。	1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について理解する。 2. 小学校算数の指導方法について基本的な判断ができる。		1．◎ 2．◎							
教科教育法理科	小学校理科に関わる科学的事象の中から重要な教材を取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。	1.小学校理科教材に関する基礎的知識を理解し、説明できる 2.小学校理科に関する実験・観察の技能を修得し、結果について適切な分析や評価ができる 3.自然事象を初め、身の回りの事象に広く興味関心を持つ 4.理科に関する児童の興味・関心を高める教授法を工夫できる		1．◎ 2．◎ 3．○ 4．◎		4．◎					
教科教育法生活	生活科の理念、目標、内容、方法について、わが国の学校教育の歴史と今日的な諸問題とを関連させながら講義する。なお、学校教育現場の教師による講義も後半に含め、生活科の授業計画や具体的指導のノウハウについて学ぶ。	1．生活科の理念、目標、内容、方法、課題について説明できる。 2．生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性ついて説明できる。 3．授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。 4．生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 5．日常生活の中で自然や社会と自分とのかかわりについて主体的に考えることができる。 6．日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができる。		1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎ 6．◎							
教科教育法音楽	1．小学校の音楽科の実践に必要な、音楽科の役割・音楽的発達・音楽科の目標・評価などの知識や学習理論について教授する。 2．実践に向けて、学習計画・学習指導案について教授し、実際に教材研究を行って学習指導案を作成し、その模擬授業を通して授業研究を行う。	1．小学校音楽科に関する知識や学習理論を習得し、それらを音楽科の実践研究に活用することができる。 2．学習指導案の作成・模擬授業の実践を通して、小学校音楽科の内容・方法について研究することができる。		1．◎ 2．◎							
教科教育法図画工作	本授業は性格上、以下の2側面を持つ。(1)美術科教育学の基礎。就学全教育・初等教育・中等教育を通しての普通教育における美術教育の基礎的必須事項の習得。「美術科教育学1～3」の基礎。(2)初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。	1. 普通教育における美術教育の基礎的必須事項および初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。	1．○	1．◎							
教科教育法体育	1. 小学校における体育科の教育内容・方法について学習する。 2. 授業は体育領域（海野）と保健領域（友定）に分け実施する。その為め２グループ編成で、６～７回で担当を交代する。	1. 小学校体育科の体育領域および保健領域について、その教育目標、教科内容・教材づくり、教育方法等に関する基礎的事項を理解する。		◎							
教科教育法家庭	1．小学校学習指導要領「家庭科」の歴史的変遷について 2．現行小学校家庭科の目標、内容・指導方法・評価について 3．家庭科の独自性について 4．授業設計の基本的観点について 5．指導案の作成	1. 小学校学習指導要領の変遷を理解する。 2. 家族や人と関わる意味やよさについて説明できる。 3. 家庭における安全、衛生を説明できる。 4. 家庭科の教材と「よりよい家庭生活」形成の関連について理解する 5．「よりよい家庭生活」形成に向けて自らが実践しようとする。 6. 小学校家庭科の基本的な事項について理解する。 7. 授業を組み立てる際の基本的な観点について理解する。 8．児童の生活実態をふまえ、児童が興味・関心・意欲をもって取り組める指導案を作成できる		1．◎ 2．○ 3．○ 4．◎ 5．○ 6．◎ 7．◎ 8．◎							
教育実習（初等）I	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本および応用実習	1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2. 児童に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎					
教育実習（初等）II	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本または応用実習	1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2. 児童に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎					
教職に関する科目（中）											
家庭科教育学I	1．中学校および高等学校家庭科の指導を行うにあたって、家庭科とは何か（家庭科の独自性）、家庭科のカリキュラム（目標、内容、指導方法、評価）、中学校と高等学校の関連性など、基本的事項について学習する。 2．その後、生徒の生活実態を踏まえたうえで、先行授業実践例および現職教員の授業を参考にしながら指導案を作成する。	1．　中・高等学校家庭科の基本的な事項について理解する。　授業設計・指導案作成について理解する。 2．　生徒の生活実態を踏まえた上で、授業設計・指導案を作成する。 3．　中・高等学校家庭科の授業に対して関心・意欲をもって臨む。 4．　授業設計・指導案を分かりやすく書ける。						1．◎ 2．◎ 3．○ 4．◎			
家庭科教育学II	1．中学校家庭科の学習指導要領を衣食住の技能的項目と家族関係の項目に分け、どのように変遷してきたかの講義を行うとともに、教育実習を想定し、全員が模擬授業を行うことで、販書、発問、教材提示などの基本的な技能を身につけることを目的とする。	1 中学校家庭科の技能的内容、家族関係的内容の変遷から、今回の学習指導要領改定のねらいを理解できる。 2. 模擬授業を通して、本時の目標をどのようなに効果的に生徒（学生）に学習させることができるか判断できる。 3. ｊ模擬授業を行うための指導案作成の過程を通して家庭科の題材の関心や意欲を高めることができる。 4. 模擬授業を行うにあたり、主体的かつ創造的に実践できる。 5. 模擬授業で自分の指導案を表現できる。						1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎			
家庭科教育学III	1．新しい生活様式・文化・環境の創造に向けて、中学校および高等学校の模擬授業を実践する。 2．その授業実践を通して、学生同士の相互評価を行う。 3．その後、授業の問題・課題を発見・整理し、中・高等学校家庭科のよりよい授業づくりを目指す。	1．　中・高校家庭科の授業目標と学習内容の関連性を理解する。 2．　模擬授業について、問題・課題を発見し、より良い授業に対する提言が出来る。 3．　模擬授業に関心・意欲を持って取り組む。 4.分かりやすい模擬授業であったか。 5．　中・高校の関連性を踏まえた指導案作成ができる						1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎			
家庭科教育学IV	1．中学校・高等学校家庭科の教育目標を把握し、教材化の視点から内容を分析していく。 2．具体的な教材にふれ、学習効果について考察するとともに作成し、各自が独特な新規教材の作成を行う。	1. 教材を作成する過程で、家庭科教材の家族関係、安全健康、環境保全に関する基本的な知識や理解ができる。： 2．　教材を作成する過程で学習内容を生徒にわかりやすくするにはどのようにしたらよいかなど判断できる。 3．　教材を作成する過程で学習内容に関して関心・意欲を高めることができる。 4.わかりやすく、おもしろくの観点から教材を工夫することができる。 5. powerpointを活用し、自分の授業を表現できる						1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎			
教育実習（中）	中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本および応用実習	1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2. 生徒に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎					
教育実習（高）	中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本または応用実習	1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2. 生徒に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎					
教科または教職に関する科目											
介護等体験実習	養護学校及び社会福祉関係の諸施設において、合わせて７日間、介護等の体験を行う。	個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質を向上させる。	○			◎					
国際理解教育論	1．国際理解教育とは何かを理解する。 2．国際理解教育の扱う分野についての知識を広げる。 3．国際理解教育を学校教育で行う際の計画をたてる。	1．国際理解教育の理念と歴史を理解する。 2．地球的な課題について知識を深め、理解する。 3．地球的な課題についての自分の意見を持てる。 4．学校で実践する際にどのような內容にすればよいかを考え、判断できる。 5．学んだことを自分の関心のある題材に応用することができる。 6．複雑な国際問題を理解しようとする。　　7． 批判的に考えることができる。 8．自分の意見を論理的に発表できる	1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．○ 5．○	1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎ 6．◎ 7．◎	1．○ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎ 6．○ 7．○						
教科に関する科目（小学校専門科目）											

初等科国語	本授業では先ず、言語と人間の関係及び国語学力の内実について、考案し、次いで小学校国語科授業を構想する基礎となる教材分析の視点ならお方法について具体的な説明を試みる。	1．言語の機能について説明できる。 2．小学校国語科の「内容」の得失について説明できる。 3．教材を多角的に検討し、指導すべき内容を的確に抽出できる。 4．言語の役割や働きに高い関心を持つ。 5．積極的に教材開発分析に取り組むことが出来る。 6．小学校国語科の「内容」について問題意識を持って考えることができる。 7．考察した結果や問題点を文章で適切に表現できる。 8．文学教材の授業改革はどうあるべきなのかについて理解する。 9．改革の視点を考えることができる。　　10．授業改革について関心を示すことができる。 11．まじめに取り組むことができる。		1．○ 2．○ 3．◎ 4．○ 5．◎ 6．◎ 7．○ 8．◎ 9．◎ 10．◎							
初等科社会	小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、それぞれの専門的視座から問題構造の概要を概説し、教材開発への方向性を示唆する。	1．小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、歴史学、地理学、法律学、社会学、哲学倫理学のそれぞれの立場から基礎的な理解を深める。　　2． 小学校社会科教材分析の視点と方法を習得する。		1．◎ 2．◎							
初等科数学	1．学校教育の範囲で扱えるさまざまな数学的問題に自ら取り組む。 2．数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について考察する。	1．学校教育で扱えるさまざまな数学に理解を示すことができる。 2．数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について具体的に指摘することができる。		1．◎ 2．◎							
初等科理科	1(前半)受講者全員に対して、理科教育の歴史、教授方法、教材研究等について、池田が講義する。 2(後半)小学校理科における学習内容およびその背景となる基礎を、物理化学分野と、生物地学分野に分けて講義する。	1.小学校理科に関する教材を科学的に理解する 2.自然事象に興味関心をもつ 3.小学校理科の教材研究ができる		1．◎ 2．○ 3．◎		3.○					
初等科生活	1．小学校低学年の生活科授業を遂行して行くまで必要な栽培、飼育、表現等の知識、技能の修得を目指す。	1．生活科授業運営に必要な知識、技能を獲得する。 2．体験型授業の基本を理解し、構想できる。		1．◎ 2．◎							
初等科音楽	小学校における音楽科の教育実践に必要な音楽の専門的な知識や技術について指導する。	1.音楽に関する知識や理論が身についている。　　2. 意欲的に音楽活動に参加し、創造的に音楽を表現することができる。 3.積極的に音楽的技能の習得に取り組み、音楽表現に生かそうとすることができる。		1．◎ 2．◎ 3．◎							
小学校取唱伴奏法	ピアノ演奏の基礎と、その発展した形として、簡易伴奏法及び弾き歌いを学習する。	1．平易なピアノ曲を、中断せずに最後まで演奏することができる。 2．小学校の歌唱教材の弾き歌いができる。		1．◎ 2．◎							
初等科図画工作	小学校の図画工作科の授業をするうえで必要な美術の基礎的技術、知識を習得する。平面造形、立体造形、鑑賞の３つの分野を学習する。	1．小学校の図画工作科における題材を理解し、表現技術と理解のための知識を習得する。 2．また、美的感覚を錬磨する。		1．◎ 2．◎							
初等科体育	1．小学校体育における各種の運動教材のうち、実技を通した学習として体操・器械運動とタグフットボールを学習する。　　2.な お、実技は２班に分かれ、体操・器械運動とタグフットボールを途中交替してそれぞれ２回ずつ行う。	1.体操・器械運動とタグフットボールに関する知識およびルールの正確な理解 2.講義に真摯に取り組む態度 3.体操・器械運動とタグフットボールの実習および指導		1．◎ 3．◎							
初等科家庭	小学校で、家庭科を指導するために必要な基礎知識を学習する。食物・被服・住居・家族の4領域について学ぶ。	1.家庭科教育の各領域における基本的な知識を獲得する 2.各領域の専門的事項を教育に活用することについての判断ができる 3.専門的内容の理解に基づいて、家庭科教育に対する関心と意欲を高める		1．◎ 2．◎ 3．◎							
教科に関する科目(中学校専門科目)											
家庭経営学(家庭経済学を含む。)	1．我が国の消費生活の変容、家計について理解するとともに現代の消費者問題の背景・要因について理解する。 2．その上で、真に豊かな消費生活文化・様式を創造する自立した消費者について学習する。	1．　授業で学んだことを理解することが出来たか。　（家計、消費者問題、消費者政策、自立した消費者など） 2.現代の消費者問題について、その要因・背景を明確にすることが出来るか。　（消費者の権利・責任の観点から） 3．　消費者問題に関心・意欲を持つことが出来たか。 4.授業の態度が真面目であったか。 5.課題レポートが分かりやすく書かれていたか。 6.出席状況					1．◎ 2．○	1．◎ 2．○ 3．○		1．◎ 2．◎ 3．◎	
生活科学論	1．水環境、生活排水、河川の自然浄化に関して講義をする。 2．　案の前半では山口市内に流れる川について、水性生物による水質分析を行うとともに後半で生活が及ぼす環境との関わりについてpower pointでまとめ、発表を行う。	1.水汚染の分析項目DOD, BOD, 磷酸性＆亜磷酸性窒素、アンモニア性窒素などについて理解できる。 2.河川の調査結果から、そこの水質階級が判断できる。 3.結果をまとめる課程で水環境の保全に関する意識を高めることができる。 4.自分の生活を振り返り、汚れを少なくするための生活様式に気づき、実践できる。 5.水生生物の同定と水質階級を見極めることができるとともに結果をpowerpointで表現できる。					4．○	1．◎ 2．○ 3．○	2．◎ 5．◎	3．◎	5．○
家族関係論	1．現代家族の理論と実態について取り上げる。 2．家族と社会の関係、家族内部の人間関係（夫婦関係・親子関係・きょうだい関係）およびその病理（DV・児童虐待など）について講義する。	1.現代家族の置かれた状況、課題について理解する： 2.家族問題についての自分なりの見解を持ち表現できる 3.家族関係に関する関心を持つ					1．◎ 2．○ 3．○	1．◎ 2．○ 3．○		2．◎	
衣生活環境論	生活のなかの衣料に着目し、歴史、衣服気候、繊維、染色、洗浄、管理等に関する基礎的な事項を解説する。	1．　衣料用素材の種類と特徴を説明できる。 2．　洗剤の種類と役割を説明できる。 3．　品質表示の意味を説明できる。 4.目的に合った衣類を選択できる。 5．　洗剤の誤った使い方を指摘できる。 6.衣生活を科学的な目で捉えることに関心を持つ。 7.授業だけのこととして終わらせるのではなく、日常生活に生かせる。					1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎			6．○ 7．○	
衣料素材論Ⅰ	まず、物理、化学の基礎知識を復習した上で、衣料用のさまざまな繊維について、構造、比重、吸湿性、保温性、強伸度、帯電性等の基本的な性質、特徴を解説する。	1.繊維素材の性質、特徴を科学的に説明できる。 2.繊維素材の性質と布地の性質を関連づけられる。 3.日頃、意識せず着用している衣料を科学の目で捉えることに関心を持つ。 4.日常生活のなかの事象を科学的な目で捉え、考えることができ、日常に応用されている物理や化学を実感することができる。					3．○ 4．○	1．◎ 2．◎			
衣料素材論Ⅱ	化学繊維の発展の歴史を述べ、その上で、最近のいわゆる機能性繊維や高感性繊維について紹介し、その特徴および機能発現の機構を論述する。	1．化学繊維の起こりを説明できる。 2．機能性繊維、高感性繊維の機能発現の機構を説明できる。 3.機能性繊維、高感性繊維の機能を効率よく発揮させる方法を自分で考えることができる。 4.世界の最先端をいく日本の繊維技術について関心をもつ。					4．△	1．◎ 2．○ 3．○			
被服造形論(被服製作実習を含む。)	1．被服分野の教材の基礎となる被服の立体構成を取り扱う。 2．基本パターンからさまざまなデザインへの展開方法およびデザインの基礎となる発想力をも磨くようなトレーニングを行う。	1.被服の立体構成に関する基礎知識と技能を習得する　2.基礎パターンから様々なデザインへの展開方法がわかる 3.デザインの基礎となる発想力を磨く					3．△	1．◎ 2．○	1．◎ 2．◎ 3．○		
被服学実験	被服の材料となる繊維、筋糸条、フィラメント糸、帛布の基本的な性質について科学的実験を行い、実験結果の整理・解析とレポート作成を行う。	1.各繊維素材の性質を物理現象・化学現象として説明できる。 2.身近なものでも、物理現象・化学現象に基づいていることを実感する。 3.身の回りに起こる現象について、「なぜ?」という疑問を抱くようにする。 4.実験指導書で説明している実験器具、測定機器を扱える。 5.チームワークの方法と技術について、創意工夫を行う。						1．◎ 2．○ 3．○	4．◎ 5．◎	3．○	
食文化論	「食べる」営みは、自然条件、社会・経済条件によって形成された文化である。本講義では、世界および日本の食文化について講義する。	1.食文化とは何かについて説明できる。 2.世界および日本の食文化について理解する。 3.食文化の研究の意義を理解する。 4.食文化に関する自分の意見を論理的に述べることができる。 5.食に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 6.日常生活の中で、食文化の問題について主体的に考えることができる。					5．◎	1．◎ 2．○ 3．△		4．○ 5．◎ 6．◎	
食品衛生学	我々の健康の源である食物の安全性については、古来よりもっとも重要な課題の一つであるが、近年、その食物の生産、製造における種々の変遷がその課題をより複雑なものにしている。この授業では食の安全をテーマに種々の角度から考える。	1.四大食品公害事件の概要と問題点を説明できる。 2.代表的な細菌性食中毒について説明できる。 3.食品添加物についてベネフィットーリスク論を構築できる。 4.遺伝子組換え、クローン技術、環境ホルモンなど新しいテーマについて説明できる。 5.食品の安全性について、個々の問題点をより深く理解し、総合的に食の安全性について考えることができる。 6.日常の食生活との関わりのなかで、食の安全性を考えることができるようになる。 7.個人個人の食の安全への関心・意欲の高まりが、社会全体の「食の安全性」の監視状況を強化することにつながることに気づき、日常の食生活の中で、自然な形で、その関心・意欲が実際の食生活へ反映できるようになる。 8.食の安全性については、個人個人がどのような考え方を持つかが大きく問われる。授業中のディベートを通して、自らの意見を正確に相手に伝える力を身につける。						1．○ 2．◎ 3．◎ 4．◎		5．◎ 6．◎ 7．◎ 8．◎ 9．◎	

栄養学Ⅰ	1．先ずはじめに、生命と細胞のしくみを学び、ついでタンパク質、糖質、脂質、ビタミン、ミネラルの五大栄養素の代謝やその生体内での機能や重要性について学ぶ。 2．また、食物繊維などについても学ぶ。 3．さらに、ビデオ鑑賞などを行い、現代の食生活の抱えている問題や課題について考える。	1. 細胞の仕組みや生体の主な機能（例えば、消化吸収・エネルギー生成など）について説明できる。 2．五大栄養素や食物繊維の役割を説明できる。 3.個々の知識を総合して、食と健康の問題を考えられる。 4.自分の食生活や現代の食の問題等と比較して考える。：						1. ◎ 2. ◎		3. ◎ 4. ◎	
栄養学Ⅱ	1．この授業では、先ず、栄養と病気の基本的なかかわりを学ぶ。 2．ついで、幼児期・児童期～老年期までの各ライフサイクルにおける栄養学的特徴について解析するさらに、おもな生活習慣病について、食生活との関連を通して学習する。	1.各ライフサイクルの栄養の特徴を理解し、説明できる。 2．主な生活習慣病について理解し、説明できる。 3．実際の生活状況と生活習慣病との関連を考えることができる。 4．マスコミやインターネットで垂れ流し状態になっている「食と健康」にかかわる情報を取捨選択できる。 5.授業を通して、食と健康の課題をさらに発展的に考え、問題意識を高める。						1. ◎ 2. ◎ 3. ◎		4. ◎ 5. ◎	
調理学実習Ⅰ	1．基本的な食品の取り扱いと調理特性を踏まえ、調理操作を中心として、基礎的調理の技術・知識を修得する。 2．この調理学実習は、小・中学校の家庭科食物領域の指導の際に必要な内容にしている。	1.実習の目的を理解する 2.食品の調理特性を理解する 3.調理が科学であることを実感する 4.調理実習を通して、食品・調理への関心を高める。 5.実習に積極的に参加する 6.調理技術を身につける 7.グループで協力して実習に取り組む 8.安全に留意して実習を行う：					2. ◎ 3. ○	1. ○ 2. ◎ 3. ○	1. ○ 4. ◎ 5. ○ 6. ◎ 7. ○ 8. ◎		
調理学実習Ⅱ	1．調理学実習Ⅰで修得した知識・技術を応用した調理学実習を行う。 2．食品科学で修得した知識を生かして、食品素材の調理性を中心とした調理実習および、家庭でできる加工食品を製造することを目標とする。　3．この調理学実習は、おもに中学校、高等学校の食物の指導をする際に、役立つような内容にしている。	1.実習の目的を理解する 2.食品の調理特性を理解する 3.身近な加工食品の製造原理を理解する 4.調理が科学であることを実感する 5.身近な加工食品の製造工程 6.調理実習を通して、食品・調理・加工食品への関心を高める 7.実習に積極的に参加する 8.調理技術を身につける 9.グループで協力して実習に取り組む 10.安全に留意して実習を行う：					2. ◎ 3. ○ 4. ○ 8. ◎	2. ◎ 3. ◎ 5. ○	1. ○ 6. ○ 7. ○ 8. ◎ 9. ○ 10. ◎		
食品科学	食品素材について、その特徴および調理特性について習得する。	1．食品素材の成分の特徴を理解し、説明できる。 2．食品の調理特性を理解し、説明できる。 3．調理操作の目的と特徴を理解し、説明できる。 4．食品素材とその調理特性を関連づけることができる。 5．日常の生活のなかで、食品と調理に科学的な関心を持つ。					1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎	1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎	9. ○	5. ○	
食品栄養学実験	1．この授業では、先ず、簡単な実験器具や薬品等の取り扱い方など基本的な実験の基礎技術について学習し、ついで各栄養素を題材に、それぞれの生物学的、科学的特性を、実験を通して体得する。 2．さらに、食品衛生的な立場から、微生物に関する実験や食品添加物の検出実験等を行う。	1.各実験について、原理までしっかりと理解し、説明できる。 2.各実験に使われている器具、試薬などについてその役割や意味を説明できる。 3.実験を通して栄養学的、食品学的、食品衛生学的興味関心を高める。 4.それぞれの実験に対して、技術の習得だけでなく、その原理的内容についても把握する。また、他人に対して協調的、建設的態度がとれる。 5.基礎的な化学実験、生物学実験の技術をマスターし、使用できる。：							1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ◎ 5. ◎		
住居学（居間を含む）	1　住生活の向上のために、住空間の構成や住環境の制御方法の理解を深めることを目的とする。 2．まいの発展や多様な住まい方を通して、現代の住まいと住生活の課題を学ぶ。 3．あわせて、健康や安全面からも住まいの環境を点検し、子どもや高齢者に配慮した住居の計画、地域環境へと理解を深めていく。	1．住まいの歴史と住まい方の発展から、住まいと住まい方の基本事項を理解する。 2．健康や安全の面から現代の課題を理解する。 3．住まいの健康や安全性の判断ができる。 4．子どもや高齢者の特性から、その必要な空間条件を考えられる。 5．住まいと地域環境との関係や、消費者問題・住宅政策など社会との関係にも関心を広げる。 6．バリアフリーなど社会の動きを主体的につかむ。 7．知識や思考力を自らの住まいと住まい方に生かし、よりよい住まい方を積極的に追求する。 8.子どもや高齢者を含んだ家族のニーズを理解し、それを間取りに表現できる。					1. ◎ 2. ◎	3. ◎ 4. ◎ 7. ◎ 8. ◎		2. ◎ 5. ◎ 6. ◎	
住居学演習	住まい、地域空間における住み手の生活や空間の問題について、仮説をたてて調査し、その問題の解決策や生活の仕方、空間のあり方を考察する。	1．各自の演習テーマに関する既習の基本事項や問題について明できる。： 2．演習テーマに関する適切な調査方法を指導できる。 3．調査結果を類型化するなどにより分析し、仮説の検証として示すことができる。 4．他の人の調査等についても意見を述べる。									1. ◎ 2. ○ 3. ○ 4. ○
設計製図	1．家族生活のためのよりよい空間創造の力を養おうとする授業である。 2．住居設計の手順や方法を習得し、想定した家族生活のための住居を構想する。 3．その設計図を作成するとともに、さらに模型で表現する。	1．住居設計の手順、方法を実際に使って製図することができる。 2．各住居空間に求められる条件や必要な広さを説明できる。 3．想定した家族のニーズを必要な空間に置きかえることができる。 4．空間や家具などを模型に表現することができる。						2. ◎ 3. ○	1. ◎ 4. ◎		
児童学	1．乳幼児の心身の発達について講義する。 2．保育記録とＶＴＲ記録をもとに、幼児の特性に応じた関わりの基本を学ぶ。3．絵本を紹介しながら、子ども理解について考える。	1.幼児期の発達の特徴を理解する： 2.幼児の行動の見方が広がり、かかわりについて考えることができる： 3.幼児や子どもに対する関心が深まる 4.絵本鑑賞とおもちゃの製作を通じて、児童文化に関心が広がる。		2. ○				2. ◎ 3. ○	1. ◎		
保育学(演習及び実践看護を含む。)	1．幼稚園における幼児の行動理解と保育のあり方について、保育記録に基づいて学ぶ。 2．家庭看護及び小児の救急看護について実習を行う。 3．幼稚園にて、幼児の行動観察・保育実習を行う。	1.保育に関するテキストを読んで、内容を理解したか 2.保育参加実習において適切な判断がなされ、行動できたかどうか 3.幼児教育について、意欲や関心が高まったか：						1. ◎ 3. ○	2. ◎		
児童文化演習	1．児童文化財の中から、絵本を中心に取り上げ、絵本の読み聞かせや子どもとのかかわりを考える。 2．保育および学校現場で使える紙を使った教材の製作を行う。	1.児童文化に関する基本的な知識を獲得したか 2.幼児にふさわしい文化財を選ぶことができるか 3.児童文化に関する関心・意欲が高まったか 4.おもちゃの製作ができるか絵本の読み聞かせができるか						1. ◎ 2. ○ 3. ○	4. ○		
生活工学	安全で豊かな生活を向上させるため、家庭においては種々の機器や電気製品が利用されている。それらの機械や電気に関する基本的な法則、家庭用機械と電気機器の構造と機能、安全な使い方などについて講義する。	1．家庭機械、家庭電気機器の仕組みを理解し、説明できる。 2．家庭における機器を安全に使いこなせる。 3．家庭で用いる機器について科学的見方で分析し説明できる 4．家庭での機械、電気の役割に関心を持ち、問題意識を高めることが出来る。 5．家庭生活や社会への機械、電気の役割・影響について主体的に考えることが出来る。：					1. ◎	3. ○	2. ◎	4. ○	
生活情報論	この授業では、家庭科において情報がいかに生活に関わっているかについて理解するとともに専門領域に必要なビジネスソフトの習得および生活における情報の役割と課題について学習する。	1.生活にどのような情報が有用でどこから取得できるかについてwebサイトから探し出す。 2.word,excelを用いて学校現場で効果的な情報処理を考えることができる： 3.word,excelを用いた情報処理の課題を操作できる。						1. ○	2. ◎ 3. ◎		
被服造形論（被服製作実習を含む。）	1．被服分野の教材の基礎となる被服の立体構成を取り扱う。 2．基本パターンからさまざまなデザインへの展開方法およびデザインの基礎となる発想力をも磨くようなトレーニングを行う。	1.被服の立体構成に関する基礎知識と技能を習得する　2.基礎パターンから様々なデザインへの展開方法がわかる 3.デザインの基礎となる発想力を磨く					1. ◎	2. ◎	1.◎ 2.◎		3.◎
卒業研究											
卒業研究	毎週1～2回のゼミを行い、各自の関心にそって決定したテーマに沿って、研究を行う。	1.テーマに沿った事項について、知識理解が深まる　2. テーマについて、自分なりの見解を持つ 3.テーマについて、関心を持って意欲的に取り組む； 4.研究結果をわかりやすく表現する；									1. ◎ 2. ◎ 3. ○ 4. ◎
ＧＰ項目別到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）											
総合的ＧＰ到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）											